

自然観察 NOW

NO : 55

野幌森林公園自然情報

発行 : 2021年4月22日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



新分類体系で「配置替え」の植物たち

草木萌え出る季節になりました。芽吹く姿は年々変わりませんが、草木を取り巻く状況が変化しました。植物の所属科名などを決める分類体系の刷新です。APG体系と言って、遺伝子本体であるDNAの構造の違いを分子レベルで分析し、どう進化したかの道筋（系統）を調べて分類する方法が主流になったのです。主に形態の違いに基づいた従来の新エングレー体系と比べ、科の再編が大幅に行われ、多数の植物が「配置替え」になりました。1998年の発表以来改訂を重ね、2016年の第4版APGIVが最新版です。図鑑も新体系の採用が標準になりつつあり、3年前発行の梅沢俊著「北海道の草花」もAPGIVに準拠した内容です。APG体系にまつわるエピソードをいくつか紹介します。

① 大規模解体され新生ユリ科は小ぢんまり

ユリ科→ユリ科・イヌサフラン科・シュロソウ科・サルトリイバラ科・チシマゼキショウ科
・キンコウカ科・ヒガンバナ科・クサスギカズラ科・ワスレグサ科・サクライソウ科

世界に約5000種といわれた大所帯のユリ科は、激変した科の一つです。大規模に解体され、国内の自生種は計10科に再編されました。スリム化したユリ科は、ユリ属、ウバユリ属、ツバメオモト属など10属が残っただけです。2013～2017年の調査報告書「道立自然公園野幌森林公園の植物」には、ユリ科として28種記録されていますが、新しいユリ科はオオウバユリ、クルマユリなど5種だけ。ハウチャクソウやチゴユリはイヌサフラン科（チゴユリ科）、バイケイソウやエンレイソウの仲間はシュロソウ科、マイヅルソウやオオアマドコロはクサスギカズラ科（キジカクシ科）にそれぞれ移籍しました。

② 仲間が増えたレンプクソウ科、その結末は…

別名ゴリンバナ（五輪花）のレンプクソウはユニークな花です。花茎の先に付く5個の花は、上向きの1個の花冠が4深裂し、その下の横向き4個の花冠は5深裂しています。形が面白いだけでなく、分類上も話題の多い野草です。レンプクソウ科は、中国で新種が発見されるまで長らく1科1属1種の科とされてきましたが、2009年公表のAPGIIIでスイカズラ科のガマズミ属とニワトコ属が加わりました。オオカメノキ、ミヤマガマズミ、エゾニワトコなど一気に約200種と仲間が増えたのです。でも、そこから一波乱ありました。歴史的には、レンプクソウ科よりガマズミ科の科名発表の時期が早いことが分かり、古い名前に優先権があると提起されたのです。その結果、レンプクソウ科改めガマズミ科になると国際植物学会議で決まったのが2017年。小さな花が代表種となったレンプクソウ科は、8年ほどで改名されてしまいました。



オオウバユリ若葉



ハウチャクソウ開花



ミヤマエンレイソウ開花



レンプクソウ開花



オオカメノキ芽吹き

③ カエデ科、シナノキ科…馴染みの名前が消えた

紅葉をめぐる木として親しまれるカエデ・モミジ類のカエデ科と、道内では街路樹も多いトチノキのトチノキ科がなくなったのは、衝撃的な出来事でした。ともにムクロジ科に吸収されましたが、その代表種のムクロジは道内に自生していないため、科名にあまり親近感を覚えないと言う人もいるはずで、研究者の間で、両科を独立した科として認めて良いという意見もあるそうで将来、復活劇があるかもしれません。花期に甘い香を放つシナノキやオオバボダイジュのシナノキ科もなくなり、アオイ科に入りました。もともと暖地系のアオイ科にはハイビスカスやオクラも含まれ、道内では公園などに植えられるムクゲがお馴染みです。さらに、大型袋果に艶々した綿毛が納まるガガイモやイケマのガガイモ科は、キョウチクトウ科に統合され消失しました。

④ ギンリョウソウもシャクジョウソウもツツジ科

日本人好みのツツジやシャクナゲに代表されるツツジ科も大きな科でしたが、近縁の科との系統関係が解明されるにつれ、他科を取り込みさらに膨張して約4000種になりました。中でもイチヤクソウ科の吸収は、一部ではツツジ科のイメージを変える「事件」と受け止められています。新エングレー分類体系では、イチヤクソウやベニバナイチヤクソウなどのイチヤクソウ属、ウメガサソウのウメガサソウ属のほか、葉緑素を持たない菌寄生植物のギンリョウソウやシャクジョウソウもイチヤクソウ科でした。こうした仲間が加わり、ツツジ科は木本・草本入り交じり、外形的にも多種多様な植物集団になりました。

⑤ アジサイ科が晴れて独り立ちデビュー

新エングレー分類体系のユキノシタ科も多様な種を含み、大再編が予想されていた科です。やはり国内自生種は6科に分割され、その一つとしてアジサイ科が独立しました。しかし、新エングレー体系同様によく使われていたクロンキスト分類体系では既に、アジサイ科は別の科と位置づけられているので、今回いわば独立が「追認」されたと言ってもいいかもしれません。普通に見かけるツルアジサイ、ノリウツギ(サビタ)、エゾアジサイはアジサイ属、イワガラミはイワガラミ属です。ツルアジサイ、ノリウツギ、イワガラミは白い飾り花(装飾花)を持ついわば「飾り花3兄弟」。晩秋から翌春にかけ、装飾花を付けたまま果序が折れ曲がってぶら下がっていたり、雪面に落ちていたりする様子を観察できます。3兄弟の「個性」の違いを見つけ出すのも楽しいものです。

参考図書：新しい植物分類体系(伊藤元己・井鷲裕司、文一総合出版)、野草大図鑑(高橋秀男監修、北隆館)、北海道の草花(梅沢俊、北海道新聞社)、道立自然公園野幌森林公園の植物(野幌森林公園植物調査の会)

(文責・堀川勉)

観察会予定

5月15日(土) 春のありがとう観察会	9:50~11:00	自然ふれあい交流館
5月23日(日) 恵庭公園観察会	10:00~12:30	恵庭公園中央駐車場
5月28日(金) 藻岩山登山観察会	9:00~13:00	慈啓会病院前登山口



イタヤカエデ開花



シナノキ冬芽



ベニバナイチヤクソウ開花



ツルアジサイ残存果序



ハリウツギ冬芽